

Aブロック全作品と講評

線

なぜだろう
いつも僕だけ
余り者

「線香花火」

その昔、神々の手によって世界が出来たばかりの時代、時という概念も現代とは異なっていた。時間という概念を動かす力をもっていたその神は、どの部位においても何億何兆という枝分かれをもつ、曲がりくねった『時の線』を所有し、その中から気まぐれに一本のルートを選ぶのだ。選ばれた線を進む「時間」において、起こる事象は先天的に決まっており、世界の凡人たちの思考も、とる行動も、その成否に至るまで、その線の中では変わることはない。だが驚くことに、世界の誰かが神のその選択を気に入らず、選択をやり直したいと願えば——彼は人が良かったのだらうか——時の神はその分岐点まで線を巻き戻し、失敗した経験をその人間だけに保持させつつ、当人の意に沿うような線を自ら選びなおしたのだという。

デジャヴとかタイムトラベルといわれる現象が、自然的に起こっていたのだ。

時の神にとって、ある程度の体力を使う荒業だったようだが、人類ができてすぐの頃は、さほど困らなかったそうだ。時という概念すら多くの原始人たちは理解できず、ましてや過去の行動を悔いたり、過去に戻ってやり直したいと願う声など、数百万年で数える程しかない時代だったからだ。当時からすれば高度な知能を持っていたと言える人々は、他より多くの失敗を学び、はた目には成功だけを味わい、更に時間を逆行することで感覚的に多くの時間を生きていたのである。彼らからすれば、現代科学が追求するタイムマシンなど兎戯に等しいものと言えるのかもしれない。

だが、発話やコミュニケーションの能力が、時代をかけて発達する過程で、この現象が段々と世界になじんでゆくと、時の神は困窮した。要望が増えれば増えるほど全ての条件を満たす線は少なくなつてゆく。更に複数の時間軸が交錯し、社会の秩序が乱れた線しか残らなくなり、ますます人々の要望が過酷になる悪循環に陥った。時の神も心身ともに疲弊しきったところに、別の神々が彼にささやいた。

——なぜ、いつまでも凡人どもに手を貸すのだ？

——我らは神である。凡人など支配してしかるべきなのだ。

時の神は、うなずいた。

死力を振り絞って、彼はある決断を下した。

時の線を、一方通行の一直線だけに作り替えたのだ。

後悔しても後戻りはできない。

世界の誰にとっても一秒は一秒。

タイムトラベルなどお笑い種。

そういう世界に作り替えて、彼は力尽きたのだ。

現在、時の線の流れを逆行したり、加速したり、作り替えることのできる存在はどこにもいない。人間の手で過去や未来へ行ける日が来たとして、それを止める存在はない。しかし果たしてそれは本当に人間の為になるのだろうか。

いつになったら届くかな

ルートを間違えちゃったかな

まちがうはずない、一直線だから

はや十年が経つ

うまれた時から追ってきた

ゆっくりでいいから近づこう

きつといつか辿り着くと信じて

地平線はまだまだ遠いよ

『カモメの独り言』

恋の特急が通過する

白線の内側に下がらなくちゃ

でも下がれない

この電車に飛び込んで

恋の天国まっしぐら

僕は完璧だ

しかしこの世の中には僕の紛い物のくせして同じ名前のやつがいる

でも評価はさほど変わらない

それどころかそいつと違って僕は視認不可能とまで言われる

完璧になればなる程みんなから見えなくなる

誰か僕を見つけてください

三度目の夏が来てしまった。これが彼女と過ごす最後の夏になるとなんとなく思っていたからか、普段よりも部屋にいる頻度が高くなった。部屋は風通しが悪くて、僕は嫌いだっただけで、彼女のブラウスが汗で少し透けているのが見られるのは好きだった。他の女の子よりも骨ばっているその身体は空気に溶けてしまうみたいに儚げだった。

午後の授業が終わって僕は部屋に向かった。彼女はすでに部屋にいて、紫煙を燻らせていた。細い指に似合わない両切りピースは半ば灰になっていた。教師の間でも評判が高い彼女の、その趣味を知っているのは僕ぐらいで、すごく優越感を覚える。そんなの吸ってたらすぐに死んじやいますよ、なんて形だけの注意をした。死にたいから吸ってるんです、と彼女は微笑みながら答えた。僕と彼女の間で擦り切れるぐらいされたやり取りだった。僕には彼女の答えの真偽はまだわからなかったが、そう答えるときの彼女の笑い方が可愛らしいので、それ以上は考えないようにしていた。適当に返事をしながら僕も仲間に加わった。それから、しばらく無言でふかしていた。蟬の声がやけに大きく聞こえて、夏らしい暑さに意識が殺されていく。彼女の肌に制服が張り付いていた。私、花火したことないんです、と彼女は唐突に口を開いた。だから、今夜やりましょう、と続けた。

すっかり日もくれて、誰もいなくなった校庭に彼女と二人で立っていた。そばにはバケツと線香花火。彼女が散々悩んで選んだ花火だった。校庭は花火禁止だったが、僕も彼女もそんなことを気にするはずがなかった。じゃあ、始めますね、なんて間の抜けたことを言って彼女は最初の花火に火をつけた。ただでさえ細い目をもっと細めて、楽しそうに花火をする彼女を見ながら、僕も隣に座り込んで、煙草に火をつけた。綺麗ですね、彼女の声に生返事をしながら、もちろん花火なんか見ていなかった。線香花火は彼女によく似合っていて、誰かが見ていないと花火と一緒に彼女も消えてしまいそうだった。最後の一本が終わる頃にはすっかり夜も更けていて、灰皿にはたくさんフィルターがねじ込まれていた。もう終わっちゃいました、残念そうに笑う。

そのまま二人で空を眺めていた。空は曇っていてろくに星なんか見えなかったが、名残惜しさを感じて僕は帰りたくなかった。彼女もそれに付き合ってくれた。結局一時間ぐらいたっただろうか、特に何もなくてそのまま帰路につく。いつも通りだった。送りますよ、と僕は言ったが、彼女は頑なに断った。彼女は僕との間に線を引いていて、それを超えるようなことは絶対にさせてくれない。その基準は僕にはよくわからなかったが、境界線があることだけは確かだった。家まで来てもらうのは、付き合っているみたいで嫌、らしい。また明日。おやすみなさい、とだけ言って校門で別れる。一人で吸う赤マルはやけに苦かった。

私のことずっと考えてたって

言うけど、それって嘘よ。

私の気持ち考えたことないでしょう。

私の目の前でみんな泣いてるのに、

あなたたちは私の後ろで

高笑いしてるんでしょう？

彼が、右から近づくと

君は、喜ぶ

僕が、左から近づくと

君は、落ち込む

だから君は、奇関数

赤「紫様、人間は私たちのことがみえないことが判明いたしました。」

紫「よくやった、では人間に何かいたずらをしてさしあげようではないか―」

赤「なにをいたしましうか」

紫「私の経験によれば、人間にぶつかるだけで人間の表面にシミとそばかすをつくることができる。」

赤なるほど、さすがです。やってまいります。」

数分後

紫「おい、お前がぶつかっているその肉、人間じゃない、牛だぞ。」

赤「この肉にぶつかると色が変わるので、てっきり仕事できているものと思いました。」

紫「人間を喜ばせてしまっているではないか……」

「焼肉」

半径 10 cm

これより内側に入ってこれるのは君だけ
一度許してしまった君に、もう抵抗なんてできないさ

半径 10 cm

君はボクにそれを許した。それは、愛情の証だった
ボクは泣き出しそうだった

半径 10 cm

いつしかそれでも満足できなくなつて
ボクはさらに近づいてみた

半径 1 cm

そんなところまできて
君は顔を背けてしまったんだ

半径 10 cm

それは君には、ナンノイミモナカッタんだネ

上の部分「ずっと一緒だよ！」

下の部分「うれしい！」

切り取り線「二人とも幸せになってね」

僕「やべープリント提出しないと

しかも切らなきやいけないやつじゃん。

手で切ってしまえ……」

切り取り線「ぐわああああああ」

上の部分「やめろおお！」

日付あるからすてないでくれええ」

下の部分「きゃああああ！！」

先生！もう内容メモったからって

捨てないでええ……」

君に少しでも近づきたい

最初は遠く離れていても

だんだん互いに引き寄せ合う

それが僕らの運命だから

だけどどれだけ近づいても

僕らは一生交わらない

二人寄り添い歩いても

僕は君の手も握れない

それもまた僕らの運命

それでも僕は君が好きだ

いつまでも君の隣にいたい

コンテスト結果

[Aの部]

コ ラ ム 番 号	コラムタイトル	点数	順位	特別賞
		まじょコメント		
A01	線香花火	5 pt	8 位	1 sp
		ひそかにブームの線香花火くん、今週の表紙を飾りました。 どどーんと派手な打ち上げ系に比べて、どうせおれらはモブキャラさ、みたくないじけっぷりが、花火という「消えもの」の儚さとなじんで、余白に語らせるいい表紙です。 特別賞：川柳賞（響きがよかったから）		
A02	無題（時の神）	3 pt	10 位	2 sp
		時の神、という架空の存在を設定することで、宇宙的・神話的スケールの壮大さで、時の流れの不可逆性という大テーマに挑んだ意欲作でした。「神である」の爽快な断言が、みんなのお気に入りフレーズになったようで何より。 特別賞：EXILE TRIVE賞（EXILEっぽいから（適当）） 芥川賞（文学を感じる。今後の執筆活動に期待したい） イチオシフレーズ：「我らは神である。」「凡人など支配してしかるべきなのだ。」「我らは神である。凡人など支配してしかるべきなのだ。」		
A03	カモメの独り言	7 pt	4 位	0 sp
		わあん、これじゃカモメくんが、かわいそすぎ。 ひたすらひたすらまっすぐ行けば、きっといつかは辿り着く……わけではないのさ。ヨコヨミがみごとにアンサーになってます。 イチオシフレーズ：「地きゆうはまるい」		
A04	無題（恋の特急）	10 pt	2 位	0 sp
		さわやかにスタートしたな、と思いきや。 えっ、そう来るのというラストの「まっしぐら」の意外性でした。 みんな、電車止めるのやめよう！ じゃなくて、これを、みんな恋愛しようぜと読み替えばいいのか、なるほど。おめでとうシルバーメダル!! イチオシフレーズ：「恋の天国まっしぐら」× 3		
A05	直線の苦悩	0 pt	12 位	1 sp
		カンペキゆえに評価してもらえないホンモノ直線くんの嘆きキャラがしっかり立ってます。ラスト、かくれんぼしてたら、誰にも見つけてもらえなくなっちゃったような気分でした。 特別賞：頭良いで賞（直線の定義がぱっとわからない。） イチオシフレーズ：「誰か僕を見つけてください」「僕は完璧だ」		

A06	やたらと線の細い君	6 pt	7 位	1 sp
		ハイスクール・ラブ、入ります。 タバコなど小道具使いもじょうずで、緻密な描写で彼女との関係性がリアルに立ち上げられて、ナイスストーリー。 欲を言えば、タイトル、もっとロマンティックに響かせたかったか。 特別賞：健康に気をつけま賞（たばこは二十歳になってから。体に悪いからやめましょう） イチオシフレーズ：「両切りピース」		
A07	合格ボーダーライン	7 pt	4 位	1 sp
		ボーダーラインの気持ちになってみた。 やさしいね。上でなく、下の方を見て気遣ってくれてるんだと、ほっこり。 特別賞：相澤賞（発想が良い）		
A08	$y=1/X$ （あの子は双曲線）	3 pt	10 位	3 sp
		喜ぶ/落ち込むという擬人化表現が楽しくて、しかも僕の恋は報われない。短いのに、なかなか策士な理系ネタでした。 特別賞：対賞性（みたまんまです）12よりはしょぼかったで賞（かぶってた）理系賞（理系っぽさが出てよかった。12とダブル受賞）		
A09	焼肉	8 pt	3 位	0 sp
		一幕のコントのような。掛け合いが軽快で、おかげで光景が目に見えるような愉快的仕上がりです。 お茶目な赤外線君、グッジョブ。みごとブロンズメダルです、おめでとう！		
A10	半径友達メートル	4 pt	9 位	3 sp
		ラストのカタカナセリフにせつなさが滲みます。 そう、壮大なる勘違い。許した、許されたと思っていたのは、ただの友達メートル。 関係性を「距離」で表現した技が成功しています。 特別賞：近すぎで賞（10?は近い）タイトル賞（タイトルがいいから）10?でも十分近いで賞（そもそも近いのが気になる）		
A11	そしてみんないなくなった	7 pt	4 位	3 sp
		甘い甘いベタベタ関係から、一転して襲うビリビリビリの悲劇。フォントを変えつつ、コミカルにシーンの転換が表現されて、タイトルも秀逸。 インパクト大の展開で、イチオシフレーズ大賞受賞です、おめでとう！ 特別賞：つめが甘い賞（文章の最後が題名と同じフォント）勢いがあるで賞（かつてない勢いがいい!!!!）使いふるされたで賞（みあきたから） イチオシフレーズ：「そしてみんないなくなった」「ぐわああああああ」×2「切り取り線「ぐわああああああ」」「僕「手で切ってしまえ…」」		
A12	漸近線	31 pt	1 位	0 sp
		ラストはしつとりと。 こんなに近くにいるのに、永遠に交わることはない。そのもどかしさ、せつなさが、漸近線という硬質なたとえかたとともに具体的な距離感として伝わってきます。		

わかるわかとフロアの共感を一挙に引き寄せ、圧勝の
ゴールドメダルと輝きました。おめでとう!!!
特別賞：理系賞（理系っぽさが出てよかった。8とダブル受賞）

[Bの部]

コラム 番号	コラムタイトル	点数	順位	特別賞
		まじょコメント		
B01	ねじれの位置	13 pt	3 位	1 sp
		視線を合わせたいのに合わない、というもどかしさ。でもまあ、満員電車なんかでは、合ったら逆に困るよね。 いろんな状況を想像させる、ふくらみのある表紙でした。共感を誘ってのブロンズメダルです、おめでとう！ 特別賞：コミュ障（あ、あの……なんで、受賞した、あっあっ、理由は……です。はい）		
B02	よく分かりま線	17 pt	1 位	1 sp
		最速降下曲線、入ります。 なるほど五重の塔ね、と分かりやすいたとえに納得しつつ、クラスのなかでひとりだけ高校教師の話に感応したから自分の今がある、というような自分史としても読めたり。実話かな？ 理系蘊蓄が共感を集めて、硬い話題なのに、みごと壇上ゴールドメダル&今週のイチオシフリーズ大賞です、おめでとう!!! 特別賞：タイトルが言いたかっただけで賞（タイトルがおもしろいから） イチオシフリーズ：「よく分かりま線」×5 「最速降下曲線」		
B03	幸せの積み重ね	12 pt	4 位	2 sp
		あるある感満載。やったよね、子どもの頃。ほんのり郷愁を誘うインパクト大の仕上がりでした。 特別賞：人生楽しんでるで賞（楽しそうだから）賞（そう）だね（そうだねとしかいいようがない）		
B04	ばあちゃん	15 pt	2 位	0 sp
		別れの悲しさを思い出とともに。 心電図の描写が、人の命の終わりを具体的に表現して、とてもリアルに感じ取れます。振り子時計、グッジョブ。 ストーリーにしっかり浸って貰えてのシルバーメダルです、おめでとう!! イチオシフリーズ：「ボーン」		
B05	ほうれい線	3 pt	8 位	0 sp
		じつは、けっこう出ましたほうれい線ネタ。 戦ってもムダと分かっている、やっぱりすぐには受け入れられない。揺れるおばさんゴコロを揺れる表現で巧みに再現していただきました。		

		おかあさんに見つからないようにね☆		
		3 pt	8 位	2 sp
B06	「白線」の上	たそがれどきに妖魔が一体。まっかな口で笑ったら、もうあなたはあやかしの術に堕ちて、異世界の住人。 色彩描写があざやかです。で、彼はこのあとどうなった？ B-1班がみごとに謎を解いて暮れました。 特別賞：こりすぎ賞（謎、わかんない）よく分かりま線賞（哲学っぽい） イチオシフレーズ：「僕は消えた 少女は君の後ろ」		
		2 pt	11 位	1 sp
B07	線（じんせい）	表紙に置いても似合いそうなきれいなレイアウトとフォントで、まっすぐに人生を表現していただきました。 特別賞：いいで賞（いやーうん、いいんだよ。） イチオシフレーズ：「私が歩くこの線はどこへ続いているのだろう」		
		3 pt	8 位	2 sp
B08	あみだくじ	けっこう出ました、あみだくじネタ。 やっぱりセンケイダイスウとかより身近なんですね。たくさん通ってもらえるとうれしいな、という線のキモチになったところがユニーク着眼です。 特別賞：よく考えま賞（よく考えたら違うかも？） なるほど賞（なるほど！ってなるため）		
		9 pt	5 位	0 sp
B09	線路に憧れて	だから、電車を止めないでってば！！ プアー———の響きが悲しすぎるラストでした。たんたんとした回顧口調から、まさかのプアー———。読者をびっくりさせる技、ナイスです。 イチオシフレーズ：「プアー———！！」×4		
		6 pt	6 位	4 sp
B10	あ—————！（タイトル省略）	絶望感が炸裂してますね。同じ叫びでも背景事情は悲喜こもごも。長い長い事情説明が、本文とのおもしろいバランスを醸し出しています。 インパクトで最多特別賞を攫いました。おめでとう！ 特別賞：タイトル長いで賞（タイトルが長いのが気に入ったから） 朝は早く起きま賞（線ということばを使わずにここに並んでいてすごい） 次は頑張りま賞（初々しい） だめ男賞（こんな人はだめだ。絶対に付き合いたくないな。By毒舌女子×2） イチオシフレーズ： 「あ—————！」×2		
		6 pt	6 位	0 sp
		しがらみをほどいて、赤い糸だけを結びたい。二つの動作に収斂させた、とてもきれいな風景で		

B11	水平線	す。 ほんとはこれが、キレイに終わろうコンセプトの裏表紙だったんですよ。でもTAさんのたくらみで……		
B12	無題（腕の「線」）	1 pt	12 位	2 sp
		りすとかっとな、ですよ？ 消えない跡を眺めつつ、何を思うのか。悔恨か、それとも乗り越え得たほろ苦さか……いろんな想像を誘います。やさしいB-6班（じつは作者さん所属）のみなさんに、ひたすら心配されちゃいましたよ。 でもって、なぜこれがラストなのかは、とある食べ物名前のTAさんを問い詰めてくださいな。 特別賞：心配で賞（とにかくひたすら心配です！！） メンヘラで賞（マジメンヘラ）		